

御香宮神社、伏見奉行所跡、十石船、寺田屋

本日は中村先生の最後の講義でした。大政奉還から戊辰戦争まで、一気にご説明いただきました。

慶応4年（明治元年）正月2日、徳川慶喜は薩摩藩を告発する「討薩の表」を持たせて旧幕府兵や会津・桑名両藩の兵を主力とする1万5千の大軍を京に差し向けました。陸路を進んだ部隊は淀に進軍、「淀川を船で遡った部隊」は伏見の京橋に上陸し伏見奉行所に駐屯しました。

正月3日、鳥羽の砲声が聞こえると、伏見の「御香宮神社」に陣を構えた薩摩軍約800名と南側の「伏見奉行所」に入った旧幕府軍や新選組等およそ3000名が兵火を交え、伏見の戦いが始まりました。

第1班は、この講義が終わってから、午後は早速「伏見の戦い」の現場を見に行くことにしました。

JR 茨木駅から JR 京都駅へ移動。近鉄電車に乗り換えて、桃山御陵駅で下車。

昼食がまだだったので、駅から西へ徒歩1分の「和くら」に入りました。魚を食べたい人もいましたが、炭火で焼くので時間がかかるため、生姜焼き定食にしました。定食のごはんは多いので半分にしてもらおう人もいました。SDGsの時代です。フードロスは無くしましょう。



昼食が終わったら、駅の東側、「御香宮神社」に向かいます。鳥居に向かいゆるやかな坂道を登っていきます。



御香宮神社は紅葉にはまだ少し早かったみたいです。ここに新政府軍が陣を構えました。境内には「伏見の戦跡」の石碑がありました。石碑の字は佐藤栄作により書かれたそうです。

次に、桃山御陵駅の南にある伏見奉行所跡に向かいました。ここに旧幕府軍、新選組が陣を構えました。



今は団地の一角に石碑が建っていました。先ほどの御香宮神社までの距離は数百メートル。目と鼻の先です。ただ、御香宮神社から見てここは低い場所にあります。新政府軍の新式銃は活躍したと思います。駅の近くに、江戸時代から200年以上も続く「魚三楼」という老舗の店があり格子に伏見の戦いの時の弾痕が残っていました。方角的には北から南に向かって撃たれていたのも、新政府軍の銃弾跡と思われる。「蛤御門」の弾痕は真偽不明ですが、こちらは本物でしょう。「触らないように」と注意書きがありました。

次は、「十石船」に乗ります。南に向かって歩いて月桂冠大倉記念館を横目に観ながら、乗り場に着きました。船に乗って三栖閘門まで行き、そこで三栖閘門資料館を見学して、また船で戻って来るコースで約50分間。費用は1200円です。



昔は、櫓で漕いだり竿で突いたりして進んだそうですが、今はヤマハのモーターでスムーズに進みます。この十石船、桜の季節には超人気だそうで、午前中には午後すべての便が当日予約で埋まるそうです。



三栖閘門資料館は、閘門の操作室を改装して作られました。閘門は船の通行が無いので作動していません。閘門からは濠川と宇治川の段差を確認することができます。

最後に寺田屋に向かいました。

残念ながら、見学できる時間帯は午前10時から午後4時までで、我々は間に合いませんでした。

寺田屋の見学料は400円です。

また、宿泊も可能です。見学者が来るので、チェックイン午後6時、チェックアウト午前9時です。

宿泊料は素泊まりで6500円です。



ここは歴史上で有名なのは「寺田屋事件」があるからですが、「寺田屋事件」は2つあります。

1つは、文久2年（1862年）に発生した薩摩藩の尊皇派志士の鎮撫事件

さらに、慶応2年（1866年）に発生した伏見奉行による坂本龍馬襲撃事件

これは、最近わかったことですが、、、（ここ20年で幕末の歴史は大きく進化しています）

当時の寺田屋は「伏見の戦い」（1868年）で焼失しています。現在の建物は当時の建物の西隣に作られました。



最後に寺田屋の庭で参加者全員の集合写真を撮って、本日の活動を終了しました。